

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	浦和大学
設置者名	学校法人九里学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
こども学部	こども学科	夜・通信		4	4 9	5 3	1 3	
	学校教育学科	夜・通信			3 2	3 6	1 3	
社会学部	総合福祉学科	夜・通信		3	6 4	6 7	1 3	
	現代社会学科	夜・通信			2 3	2 6	1 3	
(備考) 社会学部は令和 2 年度に総合福祉学部から名称変更 現代社会学科は令和 2 年度開設								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://www.urawa.ac.jp/about/jitsumu.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	浦和大学
設置者名	学校法人九里学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

http://www.urawa.ac.jp/urawa-info/wp-content/uploads/2020/07/j_2019_jigyoku.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前職：私立高等学校校長、 私立中学校校長	2017年4月1日 ～ 2021年3月31日	法人全体の運営及び 管理統制
非常勤	現職：有限会社取締役副社 長兼総務部長	2017年4月1日 ～ 2021年3月31日	法人全体の運営及び 管理統制
非常勤	現職：地方銀行監査役	2017年4月1日 ～ 2021年3月31日	法人全体の運営及び 管理統制
非常勤	現職：株式会社監査役	2017年4月1日 ～ 2021年3月31日	法人全体の運営及び 管理統制
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	浦和大学
設置者名	学校法人九里学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)の作成 すべての授業科目について、担当教員はシラバス記載要領に従ってシラバスを作成し、指定の期日までに教務課に提出する。シラバス記載要領では、①授業の方法及び内容、②授業スケジュール、③到達目標、④成績評価の方法・基準、⑤実務経験の有無などを、記載することになっている。提出されたシラバスは、記載要領に従って正しく記載されているかが教務委員によってチェックされ、必要に応じて修正され、完成となる。 授業計画の公表 各年度のシラバスは前年度内に完成され、各年度初めのオリエンテーションの時期に学生に配布され、ホームページでも公表される。	
授業計画書の公表方法	http://www.urawa.ac.jp/urawa-info/wp-content/uploads/2020/04/2020_kodomo.pdf http://www.urawa.ac.jp/urawa-info/wp-content/uploads/2020/04/2020_syakai.pdf
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各教員は、あらかじめシラバスの成績評価の欄に記載した方法・基準に従い、①学修意欲の把握、②試験やレポート、③卒業論文などによって、各学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位授与又は履修認定をしている。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPA等の客観的な指標の設定内容。学生便覧・ホームページで公表している。 S(90点以上)=4.0、A(80点以上～90点未満)=3.0、B(70点以上～80点未満)=2.0、C(60点以上～70点未満)=1.0として、$GPA = (4.0 \times S \text{の修得単位数} + 3.0 \times A \text{の修得単位数} + 2.0 \times B \text{の修得単位数} + 1.0 \times C \text{の修得単位数}) \div \text{総履修登録単位数}$で算出する(小数第3位を四捨五入)。 客観的な指標の適切な実施状況 GPAは上記方法により算出され、各学生の成績通知書に記載され、学生・保護者に知らされている。また、学生の成績分布表の作成にも利用されている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	http://www.urawa.ac.jp/urawa-info/wp-content/uploads/2020/04/2020_handbook_4.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業認定の方針の具体的な策定内容。ホームページで公表している。

こども学部（こども学科）：①人間、社会、自然の各分野に関する基礎的な知識と現代社会に対応した情報リテラシーを身につけるとともに、こどもに関する専門的知識を習得し、専門分野を生かした将来の職業生活に対して明確な目的意識を持って努力し、協調性ある社会人となる自覚を形成していること。

②こどもの最善の利益を尊重する視点に立ち、こどもの心身や言動から発せられる表現を、先入観にとらわれることなく感受できる自由な心を有し、個々のこどもたちに信頼を育むよう態度を形成していること。

③こどもの文化に関する基礎的な知識を習得し、保育、福祉、幼児教育の実践において役立つ多様な技能・技術を身につけ、それをこどもたちへの関わりに活かせるよう実践的学習を積んでいること。

④家族、地域社会、そして現代社会との関係で、こどもを理解する視点を養い、幅広い人々の参加を促しながら地域社会の創造を促す重要性和、そのための実践のあり方について考え、判断し、基礎的なことがらを理解しようとしていること。

こども学部（学校教育学科）：①人間・社会・自然の各分野に関する基礎的な知識と現代社会に対応した情報リテラシーを身につけるとともに、こどもに関する専門的知識を習得し、専門分野を生かした将来の職業生活に対して明確な目的意識を持って努力し、協調性ある社会人となる自覚を形成していること。

②こどもの最善の利益を尊重する視点に立ち、こどもの心身や言動から発せられる表現・問いを先入観にとらわれることなく感受できる自由な心を有し、個々のこどもたちに信頼を育むよう態度を形成していること。

③こどもの文化に関する基礎的な知識を習得し、小学校教育の実践において役立つ多様な技能・技術を身につけ、それをこどもたちへの関わりに活かせるよう実践的学修を積んでいること。

④学校、家族、地域社会、そして現代社会との関係で、こどもを理解する視点を養い、幅広い人々の参加を促しながら地域社会の創造を促す重要性和、そのための実践のあり方について考え、判断し、基礎的なことがらを理解しようとしていること。

社会学部（総合福祉学科）：①人間や社会などに対する幅広い知識や理解とともに、コミュニケーション能力や情報処理等々の汎用的能力を持ち、利用者の多様な福祉ニーズに応えられる能力を修得していること。

②福祉の専門的知識及び援助技術を中心として、健康・スポーツ分野、心理分野、ビジネス分野、にわたる幅広い知識・技術を修得し、総合的な福祉支援の実力を身につけていること。

③深い人間愛と強い使命感をもって、福祉の利用者を含めたすべての人々がその個性に基づき共に創造する福祉社会の実現に、持続的に貢献できる力をもっていること。

社会学部（現代社会学科）：①急速に変動し続ける現代社会を、広い視野から多角的に理解するための幅広い知識を修得し、その課題を発見し、客観的に把握し分析するための調査方法やデータ分析等の汎用的能力を有していること。

②共感性に根差して人間を理解し、発見・把握した課題の解決に向けた方策やその実現に必要な計画を考案・実行する際、多様な人々との協働性を発揮できるコミュニケーション能力や社会人として通用するマナー等基礎力を有していること。

③大学での学修を通じて修得した課題発見から解決に向けた能力を、いかなる場にあっても、より良き社会の創造に関与することに活用する価値意識を有し、校訓「実学に勤め徳を養う」を体現できること。

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

卒業の認定に関する方針に踏まえ、教育課程が編成され各科目群に卒業必要単位数が割り振られている。よって、学生は各科目群の卒業必要単位数をすべて修得することで卒業候補者となり、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	http://www.urawa.ac.jp/about/policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	浦和大学
設置者名	学校法人九里学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.urajitsu.ed.jp/hyouka/02_Bs2019.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://www.urajitsu.ed.jp/hyouka/04_Babs2019.pdf
財産目録	http://www.urajitsu.ed.jp/hyouka/01_Pi2019.pdf
事業報告書	http://www.urajitsu.ed.jp/hyouka/05_Br2019.pdf
監事による監査報告(書)	http://www.urajitsu.ed.jp/hyouka/06_Ar2019.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

http://www.urawa.ac.jp/about/pdf/jikotennkenn.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	こども学部、社会学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.urawa.ac.jp/about/policy.html ）	（概要） こども学部（こども学科）：保育・幼児教育・福祉に関わる専門的知識及び技能・技術を基盤とする実践力を身につけ、資格・免許の取得を通じて、複雑化する現代のこどもをめぐる諸課題に対応できる人材の養成を目的とする。 こども学部（学校教育学科）：小学校教諭免許状の取得を軸として、学齢児童の教育に従事するための高度な専門性と実践的指導力を身につけ、複雑化する現代の学校教育をめぐる諸課題に対応できる人材の養成を目的とする。 社会学部（総合福祉学科）：福祉の支援を必要とする人間理解と支援の実践に関する専門知識・技術を修得することにより、福祉課題のその解決に資する福祉・心理の専門的支援、健康・スポーツならびに福祉のビジネスを通じた支援の展開過程を通じた総合的支援を行う人材を養成することを目的とする。 社会学部（現代社会学科）：社会学の基礎理論と方法を修得することにより、急速に変化する現代社会の諸課題とその背景及び構造を把握する社会学的想像力を養い、社会的存在としての人間の幸福を考究し、他者との協働において解決方法を提案、実践する能力を具えた人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.urawa.ac.jp/about/policy.html ）	（概要） こども学部（こども学科）：①人間、社会、自然の各分野に関する基礎的な知識と現代社会に対応した情報リテラシーを身につけるとともに、こどもに関する専門的知識を習得し、専門分野を生かした将来の職業生活に対して明確な目的意識を持って努力し、協調性ある社会人となる自覚を形成していること。 ②こどもの最善の利益を尊重する視点に立ち、こどもの心身や言動から発せられる表現を、先入観にとらわれることなく感受できる自由な心を有し、個々のこどもたちに信頼を育むよう態度を形成していること。 ③こどもの文化に関する基礎的な知識を習得し、保育、福祉、幼児教育の実践において役立つ多様な技能・技術を身につけ、それをこどもたちへの関わりに活かせるよう実践的学習を積んでいること。 ④家族、地域社会、そして現代社会との関係で、こどもを理解する視点を養い、幅広い人々の参加を促しながら地域社会の創造を促す重要性和、そのための実践のあり方について考え、判断し、基礎的なことがらを理解しようとしていること。 こども学部（学校教育学科）：①人間・社会・自然の各分野に関する基礎的な知識と現代社会に対応した情報リテラシーを身につけるとともに、こどもに関する専門的知識を習得し、専門分野を生かした将来の職業生活に対して明確な目的意識を持って努力し、協調性ある社会人となる自覚を形成していること。 ②こどもの最善の利益を尊重する視点に立ち、こどもの心身や言動から発せられる表現・問いを先入観にとらわれることなく感受できる自由な心を有し、個々のこどもたちに信頼を育むよう態度を形成していること。 ③こどもの文化に関する基礎的な知識を習得し、小学校教育の実践において役立つ多様な技能・技術を身につけ、それをこどもたちへの関わりに活かせるよう実践的学習を積んでいること。

④学校、家族、地域社会、そして現代社会との関係で、こどもを理解する視点を養い、幅広い人々の参加を促しながら地域社会の創造を促す重要性和、そのための実践のあり方について考え、判断し、基礎的なことがらを理解しようとしていること。 社会学部（総合福祉学科）：①人間や社会などに対する幅広い知識や理解とともに、コミュニケーション能力や情報処理等々の汎用的能力を持ち、利用者の多様な福祉ニーズに応えられる能力を修得していること。 ②福祉の専門的知識及び援助技術を中心として、健康・スポーツ分野、心理分野、ビジネス分野、にわたる幅広い知識・技術を修得し、総合的な福祉支援の実力を身につけていること。 ③深い人間愛と強い使命感をもって、福祉の利用者を含めたすべての人々がその個性に基づき共に創造する福祉社会の実現に、持続的に貢献できる力をもっていること。 社会学部（現代社会学科）：①急速に変動し続ける現代社会を、広い視野から多角的に理解するための幅広い知識を修得し、その課題を発見し、客観的に把握し分析するための調査方法やデータ分析等の汎用的能力を有していること。 ②共感性に根差して人間を理解し、発見・把握した課題の解決に向けた方策やその実現に必要な計画を考案・実行する際、多様な人々との協働性を発揮できるコミュニケーション能力や社会人として通用するマナー等基礎力を有していること。 ③大学での学修を通じて修得した課題発見から解決に向けた能力を、いかなる場にあっても、より良き社会の創造に関与することに活用する価値意識を有し、校訓「実学に勤め徳を養う」を体現できること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 http://www.urawa.ac.jp/about/policy.html)
(概要) こども学部（こども学科）：①基礎的教養を学ぶための「人間総合科目」、こども理解を包括的に学ぶ「こども総合科目」、専門分野について総合的に理解するための「こども専門科目」に大別し、学位授与の方針と整合性を保つよう編成する。 ②将来を意識したキャリア教育の授業科目を2年次から体系的に配置し、実習教育やインターンシップと関連づけながら社会人としての基礎的能力を高める。 ③こどもについての総合的な理解を促す「こども総合」の科目群を設け、その学修を通じて、こどもの権利、こども理解、こどもの表現と文化、家族現代社会、学校教育などの現状と課題を幅広く学ぶ授業科目を配置する。 ④学内の親子のひろば「ぽっけ」を活用した学習を、授業科目に最大限に取り入れ、1年次から4年次まで常に地域社会と連携して実践的に学べるよう編成する。 ⑤こどもの成長発達にふさわしい知識をより实际的に身につけるよう、学内の自然環境を十分に活用した授業内容を含む授業科目を配置する。 ⑥保育士・幼稚園教諭に必要とされる多様な技能、技術を身につけ、実践できるよう幅広い演習科目を配置し、現場実習でその学習成果を総合的に活用する。 ⑦社会人として通用する情報機器の操作技能を身につけ、必要な情報収集選択と活用を通じて自らの疑問や課題を探究し、卒業研究に論文等をまとめて成果を発表する。 こども学部（学校教育学科）：①基礎的教養を学ぶための「人間総合科目」、こども理解を包括的に学ぶ「こども総合科目」、専門分野について総合的に理解するための「教育専門科目」に大別し、学位授与の方針と整合性を保つよう編成する。 ②初年次教育を1、2年次にわたって展開し、大学生としての学びの技術、学修の姿勢と意欲を形成する。 ③将来を意識したキャリア教育の授業科目を2年次から体系的に配置し、教育実習やインターンシップなどと関連付けながら社会人としての基礎的な能力と実践力を高める。

④こどもについての総合的な理解を促す「こども総合科目」の学修を通じて、こどもの権利、こども理解、こどもの表現と文化、家族・現代社会、学校教育などの現状と課題を幅広く学ぶ授業科目を配置する。 ⑤様々な形態の現場実習を伴う授業科目の履修を通して、1年次から4年次まで常に地域社会と連携して実践的な学びができるよう編成する。 ⑥こどもの成長・発達にふさわしい知識をより实际的に身につけるよう、学内外の自然環境やキャンパスの施設を十分に活用した授業内容を含む授業科目を配置する。 ⑦小学校教師として必要とされる専門的知識、多様な技能・技術を身につけ、実践できるよう幅広い専門科目を配置し、現場実習でその学修成果を総合的に活用する。 ⑧小学校教師として通用する情報機器の操作技能を身につけ、必要な情報収集・選択と活用を通じて自らの疑問や課題を探究し、卒業研究に結実する成果につなげられるようにする。 社会学部（総合福祉学科）：①学位授与の方針にそって、授業科目を、人間総合科目群（教養科目群）、キャリア形成、総合福祉科目群（専門科目群）に大別し、各科目群をさらに複数の分野に分けて編成する。 ②各授業科目とくに各専門科目は、それぞれの学修テーマと学修成果を考慮して、順次性及び体系性をもって配置する。 ③豊かな人間性や課題解決能力の涵養及び持続的な就業力の育成のために、1～4年次のゼミ教育やキャリア教育を中心に、演習・実習等の実践的な授業科目を数多く開設する。 社会学部（現代社会学科）：①授業科目を教養的分野及びキャリア形成に寄与する「人間総合科目」・「キャリア形成」、専門的分野を学ぶ「現代社会科目」に大別し、それぞれの科目区分をさらに複数の分野に分け、学部の学位授与の方針と整合性・一貫性を保つよう編成する。 ②学位授与の方針と教育目的にそって、各専門科目は、それぞれの学習成果を考慮して、配当年次や順次性、体系性をもって配置する。 ③現代社会に対する関心を深め、諸課題を発見し、その背景や構造を理解する授業科目を多く配置し、答えのない課題に対する探究心や解決のための方策を考究する課題解決能力を養う。 ④問題探究能力の涵養や、協調性・協働性を具えた人間性の豊かな社会人となれるよう、1～4年次のゼミ教育を中心に、演習・実習等の実践的な授業科目を数多く開設する。 ⑤将来設計について考えるために役立つ授業科目や、幅広い社会人として通用するために必要な情報処理能力やマナー、文書作成、接遇など、实际的技能に関する授業科目を適切に配置することにより、持続的な就業能力を高める。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.urawa.ac.jp/about/policy.html） （概要） 浦和大学の建学の精神や教育目的に理解と共感をもっている人で、次のような人を受け入れる。 ①幅広い知識・理解や汎用的技能などを修得することに積極的な人。 ②実践的な学修などを通して、専門的な知識・技術や創造的な思考力を身につけることに意欲的な人。 ③基礎的な学習能力や生活態度を身につけていて、更に高めようとする人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.urawa.ac.jp/about/information.html#section6>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する事

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					人
社会学部	－	8 人	5 人	4 人	人	人	17 人
こども学部	－	12 人	4 人	4 人	人	人	20 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		90 人					91 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： http://www.urawa.ac.jp/course/teachers.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
こども学部	110 人	116 人	105.5%	500 人	392 人	78.4%	人	人
社会学部	90 人	135 人	150.0%	300 人	266 人	88.7%	人	人
合計	200 人	251 人	120.6%	800 人	658 人	82.3%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
こども学部	65 人 (100%)	0 人 (0%)	65 人 (100%)	0 人 (0%)
総合福祉学部	24 人 (100%)	0 人 (0%)	24 人 (100%)	0 人 (0%)
合計	89 人 (100%)	0 人 (0%)	89 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業科目について重要なことは、シラバスに記載されている。すなわち、各授業科目のシラバスには、①授業の方法及び内容、②授業計画（スケジュール）、③到達目標、④成績評価の方法・基準、⑤実務経験の有無などが、記載されている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

単位の授与又は履修の認定については、各教員は、あらかじめシラバスの成績評価の欄に記載した方法・基準に従い、①学修意欲の把握、②試験やレポート、③卒業論文などによって、各学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位授与又は履修認定をしている。

学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
こども学部	こども学科	126 単位	有・無	単位
	学校教育学科	126 単位	有・無	単位
社会学部	総合福祉学科	124 単位	有・無	単位
	現代社会学科	124 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.urawa.ac.jp/about/information.html#section6>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
こども 学部	こども 学科	715,000 円	250,000 円	330,000 円	
	学校教育 学科	715,000 円	250,000 円	330,000 円	
社会学部	総合福祉 学科	715,000 円	250,000 円	400,000 円	
	現代社会 学科	715,000 円	250,000 円	280,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 令和元年度より本学独自の修学支援として、授業料・施設設備費について減免(50%)を実施している。遠隔地出身学生への家賃補助制度、私費留学生対象授業料減免、九里総一郎記念奨学金、小学校教諭就職者を対象として特別奨学金（学習奨励費）、通学定期代の一部補助制度等の多様な修学支援制度を用意している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） キャリアガイダンスを必須講座として半期に一度開催。就職支援セミナーとして、①キャリアプランニングセミナー、②カルチュラルクラス（プロの仕事を学ぶ講座）、③公務員試験対策講座等を実施し、低学年より進路選択について考えるプログラムを複数用意。また、学生の適性を理解するようキャリアガイダンス内にて適性検査を実施。埼玉労働局・ハローワーク浦和、就職支援企業との連絡協議を適宜行い、学内指導でも具体的な支援を受けている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 看護師の資格を持つ常勤が、定期健康診断やけが等の応急処置、健康相談等に対応している。また、学生相談室は、学年暦の授業期間にあわせ、毎週木曜日 9:00～18:00、臨床心理士の資格を持つ職員が学生の心理的、精神的な相談に応じている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://www.urawa.ac.jp/about/information.html#section6>